



高病原性鳥インフルエンザの発生状況

平成28年度における鳥インフルエンザの発生は、昨年11月に青森県において、家きんでは国内初となる高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されて以降、今年3月に入っても宮城県及び千葉県の新潟県において本病の疑似患畜が確認されており、平成29年3月末現在、9道県12戸の農場で高病原性鳥インフルエンザが発生しています（全てH5N6亜型）。

また、隣国の中国・台湾・韓国では、3月に入っても本病の発生が確認されております。

家きん飼養農家を含む畜産関係者の皆様方におかれましては、たびたびの掲載となりますが、気を緩める事なく飼養衛生管理の徹底や異常家きんの早期発見に万全を期していただくようお願いいたします。

平成28-29年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生について

発生概要(全9道県12農場約166.7万羽)				農林水産省 対策本部	防疫対応状況(予定は最短の場合)				防疫対応終了
事例	発生日	発生場所 注1	飼養羽数 /種別 注2		措置完了日(〇日目) ~ 10日目		21日目		
					防疫措置 (殺処分、消毒等)□	清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
①	青森県	2016年 11月28日	青森市 約1.8万羽 あひる	11月28日	11月29日開始 12月5日完了	12月16日開始 12月21日完了	12月21日解除	12月27日解除	
②	新潟県	2016年 11月29日	関川村 約31万羽 採卵鶏	11月28日	11月29日開始 12月5日完了	12月16日開始 12月20日完了	12月20日解除	12月27日解除	
③	新潟県	2016年 11月30日	上越市 約24万羽 採卵鶏	11月30日	12月1日開始 12月6日完了	12月17日開始 12月21日完了	12月21日解除	12月28日解除	
④	青森県	2016年 12月2日※	青森市 約4,700羽 あひる	12月2日 (持ち回り)	12月2日開始 12月5日完了	12月16日開始 12月21日完了	12月21日解除	12月27日解除	
⑤	北海道	2016年 12月16日	清水町 約28万羽 採卵鶏	12月16日	12月17日開始 12月24日完了	1月4日開始 1月10日完了	1月10日解除	1月15日解除	
⑥	宮崎県	2016年 12月19日	川南町 約12万羽 肉用鶏	12月19日	12月20日開始 12月21日完了	1月1日開始 1月5日完了	1月5日解除	1月12日解除	
⑦	熊本県	2016年 12月27日	南関町 約9.2万羽 採卵鶏	12月26日 (持ち回り)	12月27日開始 12月28日完了	1月8日開始 1月12日完了	1月12日解除	1月19日解除	
⑧	岐阜県	2017年 1月14日	山県市 約8.1万羽 採卵鶏	1月14日	1月14日開始 1月17日完了	1月28日開始 2月1日完了	2月1日解除	2月8日解除	
⑨	宮崎県	2017年 1月24日	木城町 約17万羽 肉用鶏	1月24日	1月25日開始 1月26日完了	2月6日開始 2月10日完了	2月10日解除	2月17日解除	
⑩	佐賀県	2017年 2月4日	江北町 約7.1万羽 肉用種鶏	2月4日 (持ち回り)	2月4日開始 2月6日完了	2月17日開始 2月21日完了	2月21日解除	2月28日解除	
⑪	宮城県	2017年 3月24日	栗原市 約22万羽 採卵鶏	3月23日	□3月24日開始 3月27日完了	4月7日開始予定	4月11日解除予定	4月18日解除予定	
⑫	千葉県	2017年 3月24日	旭市 約6.2万羽 採卵鶏	3月23日	□3月24日開始 3月27日完了	4月7日開始予定	4月11日解除予定	4月18日解除予定	

注1) 遺伝子検査がH5亜型陽性又は簡易検査が陽性※により、疑似患畜と判定した日。
注2) 飼養羽数は、患畜、疑似患畜の羽数。(四捨五入しており、内訳の合計は総数に合わない。)

出典：農林水産省



第3期鶏卵生産者経営安定対策事業説明会の開催について

第3期鶏卵生産者経営安定対策事業（平成29～31年度）につきましては、既に本事業の加入者の皆様方にはお知らせしているところですが、事業の仕組みが大幅に変更となったことから、地域における説明会を下記の日程により開催する予定ですので、本事業の加入鶏卵生産者の皆様には極力ご参加頂きたくお願い致します。

なお、ご出席の場合には、各県養鶏協会事務局に、その旨（説明会開催月日、会社名等、出席者名）を早急にご連絡頂きますようお願いいたします。

○ 第3期鶏卵生産者経営安定対策事業説明会開催日程

日時	参集範囲	幹事県	連絡先	会場
4月4日(火) 13:30～16:00	九州地区	鹿児島	鹿児島県養鶏協会 TEL:099-812-8850 FAX:099-812-8851	TKP ガーデンシティ鹿児島中央 鹿児島市中央区 26-1 南国アネックス 3F TEL:099-214-2525 FAX:099-214-2530
4月5日(水) 13:30～16:00	関東地区	茨城	茨城県養鶏協会 TEL:029-231-7501 FAX:029-225-6718	スペースまる八 会議室 中央区日本橋茅場町 1-12-2 樋口本店ビル 8F TEL:03-3666-3636 FAX:03-3666-0864
4月6日(木) 13:30～16:00	東北地区	福島	福島県養鶏協会 TEL:024-521-1764 FAX:024-521-3556	ホテル白萩 2階 けやきの間 仙台市青葉区錦町 2-2-19 TEL:022-265-3411 FAX:022-265-3462
4月10日(月) 13:30～16:00	中国四国地区	広島	広島県養鶏協会 TEL:082-264-1468 FAX:082-264-1469	サン・ピーチ OKAYAMA 3階 ピーチホール 岡山市駅前 2-3-31 TEL:086-225-0631 FAX:086-222-6901
4月11日(火) 13:30～16:00	中部地区	愛知	愛知県養鶏協会 TEL:0532-61-3185 FAX:0532-61-3186	大津橋ビル 5階 大会議室 名古屋市中区丸の内 3-4-10 TEL:052-951-7471 FAX:052-971-5111
4月12日(水) 13:30～16:00	北海道地区	北海道	北海道養鶏会議 TEL:011-209-8553 FAX:011-209-8560	ホテルモントレ札幌 2階 メイフェアホール 札幌市中央区北 4 条東 1-3 TEL:011-241-2244 FAX:011-232-1212
4月14日(金) 13:30～16:00	沖縄地区	沖縄	沖縄県養鶏協会 TEL:098-831-5170 FAX:098-853-9385	JAおきなわ南風原支店ホール 2階 沖縄県南風原町山川 526 TEL:098-889-2191 FAX:098-889-2221



役員選任会規概要および役員選任スケジュール

1. 役員構成

- | | |
|--|-------------|
| ① 理事 | 22名+ (最大4名) |
| 5つの地域を代表する者 | 13名 |
| 大規模生産者を代表する者 | 6名 |
| 団体会員を代表する者 | 2名 |
| 学識経験者 | 1名 |
| ただし、理事にJAグループ(*)、鶏卵販売農協等(**)各1名を含むこと
また、都道府県職員等(***)を2名含むこと | |
| ② 監事 | 3名 |
| 生産者 | 2名 |
| 団体 | 1名 |

2. 推薦方法

- | | |
|-------------------------------------|------|
| ① 地域協議会による推薦 | |
| 地域を代表する者(北日本2、関東甲信越3、中部3、中国四国3、九州2) | |
| ② 大規模生産者グループによる推薦 | |
| 大規模生産者を代表する者 | 6名 |
| ③ 団体会員による推薦 | |
| 団体会員を代表する者 | 2名 |
| 団体会員監事 | 1名 |
| ④ 地域協議会会長による推薦 | |
| 生産者監事 | 2名 |
| ⑤ 理事会による推薦 | |
| 学識経験者 | 1名 |
| ①~⑤で都道府県職員(***)の推薦が定員に満たなかった場合 | |
| 理事候補者 | 2名以内 |
| ⑥ JAグループ(*)、鶏卵販売農協等(**)による推薦 | |
| ①~⑤で各グループの者が定員に満たなかった場合 | |
| 各々、連名で候補者1名ずつを推薦することができる | |

(*) 全国農業協同組合連合会、道県経済農業協同組合連合会及び県農業協同組合

(**) 一般社団法人全国鶏卵養鶏団体連合会及び鶏卵販売農業協同組合

(***) 一般社団法人全国鶏卵養鶏団体連合会及び鶏卵販売農業協同組合



3. 役員就任時年齢について

役員の時任時満年齢については、満80歳までとする。

4. スケジュール

3月16日	臨時総会 役員選任会規を制定
5月10日	推薦届出書到着締切日
5月12日	生産者監事公開開票集計（馬事畜産会館2階）
6月2日	理事会（馬事畜産会館2階）役員候補者案決議
6月27日	定時総会（大手町ツブサケイプラザ3階）新役員決定

アニマルウェルフェアに係るアンケート調査へのご協力について

先般からお願いしておりますアニマルウェルフェアのアンケートについて、未提出の方は取組み状況を回答用紙にご記入の上ご返送頂きますようご協力をお願いします。

- ・アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針

<http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/pdf/layer.pdf>

- ・持続可能性に配慮した畜産物の調達基準(案)

<https://tokyo2020.jp/jp/games/sustainability/opinion-sourcing-code/data/sourcing-code-JP.pdf>

<https://tokyo2020.jp/jp/games/sustainability/opinion-sourcing-code/data/livestock-products-code-JP.pdf>

[<下線部クリックで該当PDFが開きます>](#)

農林水産関係事業者が保有する個人情報の適切な管理の徹底について

今般、農林水産関係事業者において、外部からの不正アクセスにより、クレジットカード情報を含む個人情報が漏えいする事案が発生したことを受け、農林水産省生産局長から本協会あて通知にて、農林水産関係事業者が保有する個人情報の適切な管理の徹底および安全管理措置などに万全を期することについて、周知徹底を図るよう依頼がありました。

会員各位におかれましては、保有する個人情報の漏えいの防止策および技術的な安全管理措置等、個人情報の適正な管理の徹底に努めていただくよう改めてお願い申し上げます。



配合飼料供給価格の動向

全国農業協同組合連合会（JA全農）は、平成29年4～6月期の農家向け配合飼料供給価格について、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、前期（平成29年1～3月期）に比べ、全国全畜種総平均でトンあたり約700円値上げすると発表しました。なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。今回の販売価格の引き上げは前期に引き続き2期連続です。

今後は、米国産とうもろこしの需要動向や南米産の生育状況に加え米国産新穀の作付面積や作付時の天候が注視される傾向にあります。米国産の豊作により需給は安定していることから、相場は現行水準で推移するものと見込まれます。

単位(円/トン当たり)

	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
平成29年	↑1,950	↑700		
平成28年	▼700	▼3,700	▼800	▼1,650
平成27年	↑2,550	▼750	▼1,800	据え置き
平成26年	▼500	↑1,300	↑800	▼2,650

出典：全国農業協同組合連合会（JA全農）「配合飼料供給価格」

協会活動報告

[青字下線部をクリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内
該当事業のページが開きます](#)

1. 各事業の報告

(1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

① 鶏卵価格差補填事業の事業参加者との契約数量（トン/月当たり）

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936
平成28年度	164,846

② 2月の標準取引価格 198.74 円/Kg

平成28年度補填基準価格 189 円/Kg

平成28年度安定基準価格 169 円/Kg

鶏卵生産者経営安定対策事業にご参加の生産者の方々へ

第3期鶏卵生産者経営安定対策事業、平成29年度契約関係書類については、4月下旬頃の発送を予定しております。発送のタイミングで情報発信をさせていただきますので、今しばらくお待ちください。



(2) 畜産物輸出特別支援事業 (鶏卵輸出部会)



AEB は米国鶏卵の輸出拡大を狙う



AEB (American Egg Board/米国鶏卵評議会) はチェックオフ制度に守られている団体で研究、教育やプロモーション等により鶏卵需要を拡大しているが、2017年には輸出拡大を戦略の第一にした。前会長であるブレイヤー・バン・ゼッテン氏 (アイオワ州の養鶏会社社長) は以下述べている。

- ・米国は世界第2位の鶏卵生産国であり2015年には570万トンの鶏卵生産を行っていたが、世界的には米国には全世界の中ではわずかなパーセントの人口しかない。米国はその卵のうち3.5%を輸出している。それに対して米国ブロイラーは20%以上が輸出されている。
- ・米国鶏卵輸出は過去においては強固であり7%程度はあった。しかしながら、2014~15年に起こった高病原性鳥インフルエンザの大規模発生の為に、鶏卵輸出市場は半分までしぼんでしまった。我々はこの3.5%を取り戻し、この市場を大きく育てたい。

AEB 専務理事、CEO であるアン・アロンゾ氏は以下述べている。

- ・AEB は USAPEEC (USA Poultry & Egg Export Council/アメリカ家禽鶏卵輸出協会：米国家禽を世界に広めるための非営利団体) と協働している。2016年には両協会でもキシコとキューバに代表団を派遣し、2017年にも何件かのイベントを企画している。
- ・AEB は2つのタイプの市場に最大の可能性があると考えている。一つは既に米国鶏卵が輸出され、それを使用している業界がより多くの鶏卵を消費する可能性がある国である。もう一つは今まで米国鶏卵の輸入が無いが、鶏卵や鶏卵加工品の著しい買い手となる確かな傾向を持っている国である。
- ・現在のリストに最もフィットする国々と市場としては香港、日本、メキシコ、韓国、中東とカリブ海諸国である。AEB はそれらの国々・地域での展示会に出展し、同時に駐在員を置くことも計画している。

米国は2014-2015年の鳥インフルエンザで家畜防疫 (バイオセキュリティ) で多くの経験を積み、その結果家畜防疫においては世界のリーダーとなっていることが大きなメリットとなって、鶏卵輸出増が期待できる、としている。

出典：WATTAgNet. 3/22/2017



2. 今後の予定

4月4日(火)～4月14日(金)	第3期鶏卵生産者経営安定対策事業説明会
4月26日(水)	鶏卵輸出部会 第6回理事会
4月28日(金)	平成29年度第1回 国際競争力強化委員会

日鶏協ニュース・速報・回覧版発行状況（平成28年度）

（一社）日本養鶏協会では、平成26年8月13日「日鶏協回覧版 インターネットバンキングが狙われています」（第1号）を発行以来、日鶏協ニュース平成29年3月号で、153回の情報発信をしてきました。

28年度は、以下の日鶏協ニュース12回・日鶏協回覧版22回・日鶏協速報11回を発行しました。

来年度も皆様に役立つ情報を適切に提供できるよう紙面の充実に努めていきたいと考えておりますので、会員の皆さまをはじめこのサイトをご覧の皆さまから、養鶏や卵に関するニュースや話題のご提供をお待ちしております。

日鶏協ニュース

	配信日	番号	タイトル
H28	4月27日	日広 1604	4月号 特集：たまご歳時記（2）
	5月26日	日広 1605	5月号 特集：IECについて
	6月29日	日広 1606	6月号 特集：日鶏協の仕事
	7月29日	日広 1607	7月号 特集：採卵鶏の飼養動向
	8月31日	日広 1608	8月号 農林水産関係補正予算について 他
	9月30日	日広 1609	9月号 11月5日はたまごの日 他
	11月2日	日広 1610	10月号 親子オムライス教室 他
	12月1日	日広 1611	11月号 高病原性鳥インフルエンザに関する新情報 他
	12月28日	日広 1612	12月号 高病原性鳥インフルエンザに関する新情報 他
H29	2月2日	日広 1701	1月号 高病原性鳥インフルエンザの発生状況と予防対策の重要ポイント 他
	3月2日	日広 1702	2月号 特集：農業総産出額
	4月3日	日広 1704	3月号 第3期鶏卵生産者経営安定対策事業説明会開催 他



日鶏協ニュース

平成29年3月号
一般社団法人 日本養鶏協会

日鶏協回覧版

	配信日	番号	タイトル
H28	4月13日	日回160401	ネットでのたまご関係情報について
	4月14日	日回160402	特殊卵製造・販売の方々へ
	4月20日	日回160403	熊本地震について
	5月17日	日回160501	熊本・大分地震について
	5月24日	日回160502	オムライスリーフレット配布の件
	5月30日	日回160503	ガッテンでの放送内容について
	5月31日	日回160504	ネットでのたまご関係情報について
	6月1日	日回160601	dancyu 日本一の卵レシピ
	6月1日	日回160602	IEC クアラルンプール総会参加者募集
	6月2日	日回160603	熊本・大分地震鶏卵生産者義援金受付状況
	6月2日	日回160604	マツコの知らない世界 友加里さん情報
	6月15日	日回160605	熊本・大分地震鶏卵生産者義援金受付状況(3)
	7月7日	日回160707	熊本・大分地震鶏卵生産者義援金受付実績(4)
	8月10日	日速160810	齋藤会長就任
	9月5日	日回160905	鶏卵生産者経営安定対策事業委員会の開催
	9月14日	日回160914	畜産クラスター事業概要(補正予算)
	11月7日	日回161107	親子オムライス教室オリジナルムービー
	12月8日	日回161208	鳥インフルエンザに関連した風評被害の防止について
	12月14日	日回161214	野鳥における高病原性鳥インフルエンザの監視の徹底について
12月20日	日回161220	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について(宮崎県)	
H29	1月6日	日回170106	熊本県での鳥インフルエンザ発生に伴う風評被害の防止について
	2月13日	日回170213	アニマルウェルフェアに係るアンケート調査へのご協力について

日鶏協速報

	配信日	番号	タイトル
H28	5月6日	日速 160501	熊本・大分地震鶏卵生産者義援金
	6月20日	日速 160601	第67回通常総会開催される
	11月15日	日速 161115	高病原性鳥インフルエンザ対策の徹底について
	11月18日	日速 161118	高病原性鳥インフルエンザの疑い事例について
	11月29日	日速 161129	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	12月16日	日速 161216	家さん飼養者の皆様へ
H29	1月16日	日速 170116	岐阜県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	1月25日	日速 170125	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について(9例目)
	2月6日	日速 170206	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について(10例目)
	3月16日	日速 170316	平成28年度臨時総会が開催されました
	3月24日	日速 170324	鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について(11・12例目)



日鶏協ニュース

平成29年3月号
一般社団法人 日本養鶏協会

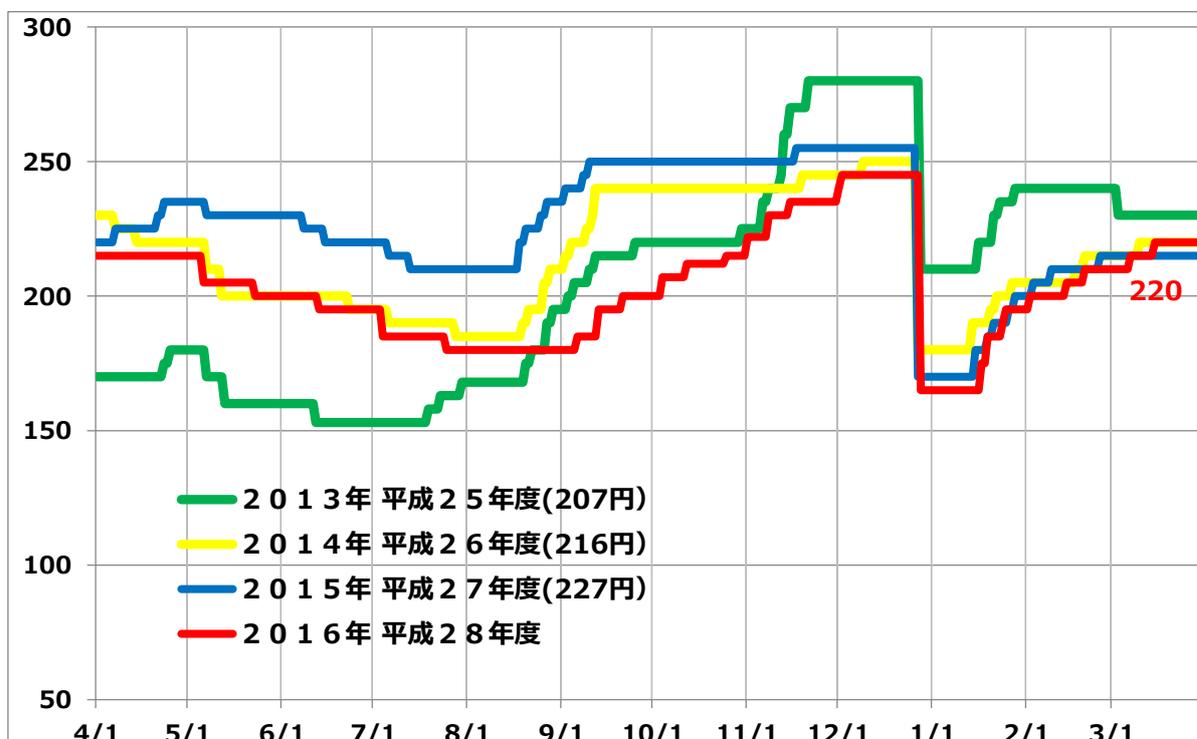
統計データ

【相場動向】過去10年間の2月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成20年	190	212	164
平成21年	186	208	174
平成22年	194	213	179
平成23年	203	223	189
平成24年	185	203	179
平成25年	190	208	184
平成26年	240	258	234
平成27年	209	233	199
平成28年	209	233	194
平成29年	204	228	184
平均値	201	222	188

平成29年2月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値204円・高値228円・安値184円と、平均値・高値は過去10年間の平均値を上回っているものの、直近4年間では最も低い相場となっています。

【鶏卵相場推移 2013年～2016年 会計年度 東京全農Mサイズ 円/Kg】



鶏卵相場は3月に入り、210円からスタートし徐々に値を上げ、3月末には10円値を上げ220円となりました。これは平成27年度の215円を上回り、26年度と同額の相場となっています。

(29年度4月のニュースからは、年毎1月～12月のチャートに変わります)



日鶏協ニュース

平成29年3月号
一般社団法人 日本養鶏協会

【鶏卵関係主要計数】平成29年1月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	本年
28年 2月	8,604	104.0%	470	104.6%	845	103.2%	209	209
3月	9,238	99.7%	494	102.9%	865	101.6%	215	219
4月	8,779	104.4%	486	101.4%	890	106.1%	215	227
5月	9,398	104.6%	464	103.2%	889	103.8%	204	230
6月	9,228	101.6%	463	101.9%	867	108.0%	197	223
7月	8,532	96.6%	438	94.8%	864	105.7%	184	213
8月	8,471	112.9%	454	106.9%	811	100.8%	180	219
9月	9,184	108.8%	446	97.9%	847	105.5%	192	247
10月	9,140	103.1%	464	96.9%	908	106.6%	211	250
11月	8,837	103.7%	478	103.7%	875	104.0%	231	252
12月	9,213	101.6%	524	100.5%	909	106.9%	244	245
29年 1月	9,276	111.5%	457	101.9%	850	102.0%	179	182
1年間小計	107,900	104.4%	5,638	101.4%	10,419	104.5%	205	226

- ・雛餌付羽数は、8月以降、前年を上回って推移しており、1月も前年に比べ11.5%の増加となっています。この結果、年間の出荷羽数は前年比4.4%増の108百万羽となり、3年連続して前年を上回っています。
- ・配合飼料出荷量は、28年11月以降前年を上回って推移しています。年間では、ほぼ前年並みの出荷量となっています。
- ・鶏卵家計消費量は、年間を通して前年を上回って推移しており、年間でも前年比4.5%増の消費量となっています。
- ・これらの統計からすると、供給サイドでの大きな落ち込みも無く、家計消費などの需要も堅調な展開となっています。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2017年4月3日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

